

# 2022年度 千葉明德中学校入学試験（適性検査型入試）

2022年1月21日

## 適性検査ⅢC（本校会場）

### 注意事項<sup>じこう</sup>

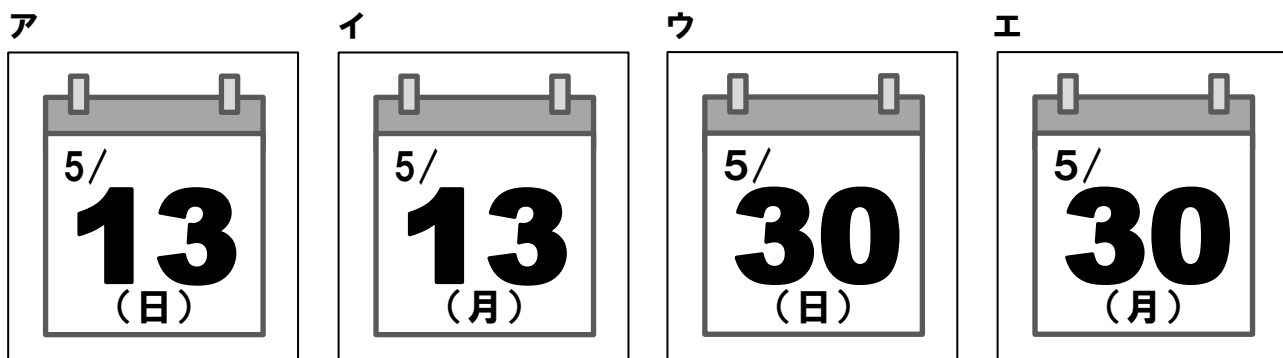
始まりの指示があるまで、下の注意をよく読んでおくこと。

1. 始まりの指示があるまで問題用紙や解答用紙に手をふれてはいけません。
2. 問題用紙は1～6ページ、解答用紙は1枚です。
3. 試験時間は45分間です。
4. 問題は ① と ② があります。
5. 問題の内容についての質問はできません。
6. 携帯電話、電卓、計算機能付き時計など電子機器類を使用してはいけません。
7. 困ったこと（筆記用具を落としたときなど）があったら、だまって手をあげなさい。
8. 持ち物を貸したり、借りたりしてはいけません。
9. 答えはすべて、解答用紙に記入しなさい。
10. 終わりの指示があったら、すぐに筆記用具を置き、解答用紙を問題用紙の上に置きなさい。



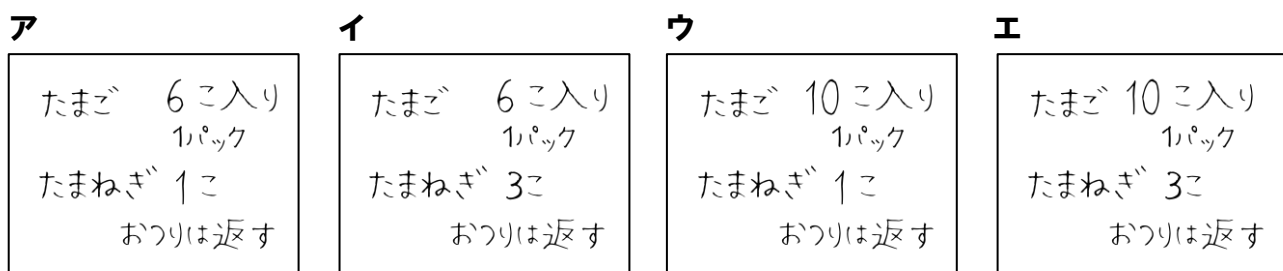
(3) 【 会話を聞き、内容に合う絵を選ぶ問題 】

ジェームズさんとアンさんが話をしています。二人の話を聞いて、アンさんの誕生日がいつなのか、次の**ア**から**エ**のうちから一つ選び、記号で答えなさい。



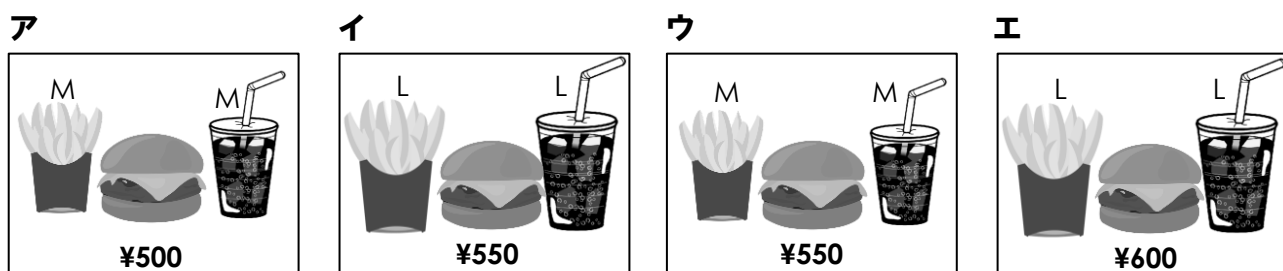
(4) 【 会話を聞き、内容に合う組み合わせを選ぶ問題 】

お使いに出かけるジョンさんが、お母さんに買ってくるものの内容をたずねています。ジョンさんが書いたメモを日本語でまとめたものを、次の**ア**から**エ**のうちから一つ選び、記号で答えなさい。



(5) 【 会話を聞き、内容に合う絵を選ぶ問題 】

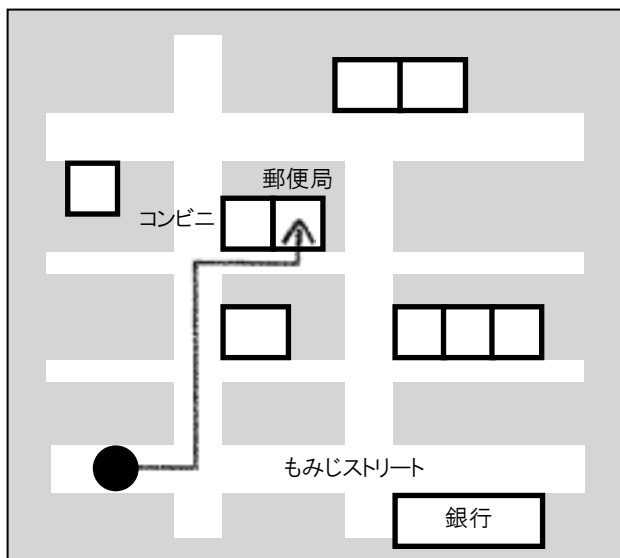
ケンさんがファーストフード店で注文をしています。ケンさんが注文したものを、次の**ア**から**エ**のうちから一つ選び、記号で答えなさい。



(6) 【 会話を聞き，地図に情報を書き入れる問題 】

アレックスさんは郵便局を探しています。問題用紙の例を参考に，道ばたで女性に声をかけたアレックスさんになったつもりで，地図に道順と郵便局，目印になるその他の建物の情報などを書入れなさい。スタート地点は黒丸の部分になります。書き入れるメモは日本語でかまいません。

例



(7) 【 インタビューを聞き，情報を書き入れたり直したりする問題 】

ミホさんが，留学生のブラウンさんに英語でインタビューをしています。解答用紙には，「事前にもらっているメモ」が印刷されています。ミホさんになったつもりで，インタビューの内容を書き入れ，メモを完成させてください。また，事前のメモがまちがっている場合は正しく直してください。

**2** 次の文章AとBを読んで、あとの問いに答えなさい。

**A** 次の文章は、さまざまな国々と関係を持っている多くの児童が在籍している、横浜のある公立小学校の様子が述べられています。

「日本の学校に入学したら、子どもたちは自分の国のことを忘れてしまうだろうな……」入学式に参列するために来校した、ある外国に関係のある児童の祖父母が話しているのを耳にしたことがあります。もちろん、保護者の方々は、我が子が日本の学校や日本社会にうまくなじむことができるように望んでいます。けれども、その一方で、それによつて母国の文化を忘れてしまうのではないかと不安も抱えています。

私たちは、子どもたちが自分の母国の文化を尊重し、その文化や言語を忘れてしまうことのないようにしたいと考えています。

そのために、たとえば、子どもたちがつながる国々のことばで「おはようございます」「さようなら」「いつしよに遊ぼう」などと大きく書いた紙を校舎の入り口に掲示したり、一年生の教室付近に、子どもたちに関係のある国々の民族衣装や民芸品、本や雑誌、ボードゲーム、日本の昔の道具類（低学年の生活科にある昔遊びや、国語の昔話などで活用します）を展示したりしています。

学校図書館にも、それぞれの国の言語で書かれた絵本や書籍をできるだけ揃えるように努力しています。保護者の方々に寄贈していただいた本や、私がさまざまな国を訪れた時に見つけて買った本などもあります。

学校給食も、宗教上の理由から食べられない食材がある場合は個別に対応しています。

このような学校の様子をみて、学校に来るまではとても心配していたあの祖父母も、「こんなに多くの国の子どもたちが通っているんだね」「私の国のものがきれいに飾られていてうれしかった」などと言って、心から安心している様子でした。

学校教育目標は「心つながり 笑顔ひろがり 世界へはばたく」です。これは、多文化共生の学校づくりを進めるために、地域の人々、保護者、児童、教職員から、これまで大切にしてきたことや、これから大切にしたいことを挙げてもらい、それをもとにして掲げられた目標です。

そして、校歌も同じようにしてつくられました。校歌には「世界中の誰とでも心つながり 笑顔音む」という歌詞が盛り込まれています。

（菊池 聡 著 『〈超・多国籍学校〉 は今日もにぎやか！』）

## B

人間はそれぞれ、自らの自然性、文化性、歴史性という次元で、他者と置き換<sup>か</sup>えることのできない「偶然性」の重みによって規定されています。人間は各自、自分の身体的自然を自由に選べず、自分が生まれ育つ家庭や民族ないし国家などの社会環境<sup>かんきやう</sup>もあらかじめ選ぶことができません。さらに、どのような時代に生まれるかは、各自にとって全く偶然の産物といえるでしょう。

こう考えると、人間は生まれながらにして自由な存在なのではなく、偶然によって支配される宿命的存在のように思えてきます。しかし、これは半面の真理でしかありません。人間は他の動物と異なり、「生<sup>せい</sup>所<sup>じよ</sup>与<sup>よ</sup>」としての世界を「課題」としての世界に変える力を多かれ少なかれ有しています。

人間は、ある程度まで、自分の脳を含めた身体を種々の訓練によってコントロールできるし、他者の身体的自然を何らかのコミュニケーションや類推などによって理解できます。また人間は、自己の生活基盤<sup>きばん</sup>となる文化的環境を改善・変革できるのみならず、自己とは異なる他者の文化的環境をも、何らかのコミュニケーションをとおして理解することもできます。さらに人間は、自己と異なる時代に生まれた他者の歴史をいきいきとした想像力によって理解し、また、自己のミクロの歴史（生活史）のみならず、力をあわせてマクロの歴史（地域史、自国史、世界史など）を方向づけることもできるのです。

そしてまさにこの点に、運命に甘んじない人間の自由な創造力と、多様な身体的自然、文化、歴史のコンテクストに生きる他者への理解力の存在が証明されるといってよいでしょう。

筆者は、このように所与としての自然、文化、歴史によって規定されながらも、それらを他者との関係において変革していくような「自己―他者」論を、**I** 応答的「自己―他者」論と名づけたと思います。応答的「自己―他者」論は、つねに、自己と自己の内に取り込むことのできない他者との応答をとおして、人間存在を豊かにしていく論理です。このような論理によって、「公共世界」は、均質ではなく、多様でダイナミックな性質を帯びることでしょう。

応答的「自己―他者―公共世界」論は、地球市民的観点と多文化共存の観点の相補性という理念に結びつくとき、**II** 「多次的」な「自己―他者―公共世界」観として理解することが可能になります。

（山脇直司著『公共哲学とは何か』）

(注) 1 所与—与えられたもの。

2 ミクロ—個々の視点。

3 マクロ—全体の視点。

4 コンテキスト—文脈、状況。

5 ダイナミック—躍動的なこと。

(1) 文章[B]傍線部Ⅰ「応答的『自己—他者』論」について、文章[A]で、子どもたちは、さまざまな国と関係を持つ児童に対して、どのようなことを行っていますか。句読点を含めて**四十文字以内**で答えなさい。

(2) 文章[B]傍線部Ⅱ「『多次的』な『自己—他者—公共世界』観」について、あなたのクラスに、さまざまな国々と関係を持つクラスメイトが何人かいるとします。

そのとき、「多次的」な「自己—他者—公共世界」観にもとづいた場合、具体的にどのようなクラスになればよいと思いますか。

次の**条件**にしたがって、**二百文字以内**で答えなさい。

#### 《条件》

① **二段落構成**にまとめて書くこと。

② **第一段落**では、自己（自分）、さまざまな国々と関係を持つクラスメイト、のそれぞれの立場について述べること。

③ **第二段落**では、第一段落を踏まえて、クラス全体（公共世界）がどのようになればよいと思うのかを述べること。